

定例教育委員会会議録

令和4年12月27日

境港市定例教育委員会（令和4年12月27日委員会会議録）

招集年月日 令和4年12月27日 15時30分

招集場所 市役所第1会議室

開 会 15時30分 教育長宣言

教育委員会 教育長 山本 淳一

委 員（職務代理者） 中田 耕治

委 員 十河 淳 渡邊 不二子 大部 由美

教育長から説明のため出席を求められた者

教育委員会事務局長 松 原 隆

教育総務課長 角 純 也

教育総務課長補佐兼指導係長 柳 楽 力 人

教育総務課長補佐兼管理係長 足 立 統

傍聴者数 なし

会議書記 教育総務課長補佐兼管理係長 足 立 統

提出議案 なし

協議事項 12月定例市議会教育委員会関係質問答弁について

報告事項 12月行事報告、1月の行事予定

新型コロナウイルス感染症における対応等について

【1. 開会】

山本教育長

ただいまから12月の定例教育委員会を始めます。

【2. 前回議事録承認】

【3. 議事】

山本教育長

本日は議決事項がありませんので、協議事項からとなります。協議事項は12月定例市議会教育委員会関係質問答弁についてです。事前に資料をお渡ししておりますが、ご意見ご質問等ありますでしょうか。

渡邊委員

市民交流センターの市民からの評価について、資料を見ますととても満足度が高くなっておりますが、要望事項もいくつかあがっております。その中で既に改善済のものもありますが、例えば時計の設置等はいかがですか。

山本教育長

時計については、来場された方が時間を気にしたりしないようにというコンセプトであえて取付しておりませんで、キョロキョロされる方もおられますが、今のところ特に苦情も出ていないようです。

渡邊委員

トイレ表示とか基準みたいなものがあると思いますが、そういうコンセプトがあるという話を伺うと、なるほどとなりますし、みなさん知らないでしょうね。

中田委員

トイレ表示については、どこにでも取付できるものではないですよ。

山本教育長

避難表示は消防法で義務付けられていますが、トイレ表示については、そこまで大きなホールでもないの、くるっと回っていただければと思います。音楽ホールを意識した作りでもありますので、時間をなるべく気にしないでというところもあります。要望については、改善できるものはすぐに改善を図っており、例えば図書館の子ども用のカートについてもすぐに用意して、子どもたちが嬉しそうに使ってくれております。休み中は小さいお子様連れのお客さんやお年寄り、常連のお客さん等、多くの方が利用してくださっており、ありがたいことです。

十河委員

私も先ほど市民交流センターに行ってみたのですが、テーブルの増設等、きめ細かく対応していただいております、この半年間でもずいぶん変わってきているなとうれしく感じております。

中田委員

交流センターの正面の駐車場のことが出ておりますが、乱雑に駐車してあり、景観上はあまり良くないという印象なので、正面ではなく別で駐車場を用意してもらった方が良い気がします。利便性を考えると正面が良いと思いますが、難しいところですね。

山本教育長

座席数の2割を駐車場として確保するというのが標準のようで、座席数が880なので200弱になります。最初、正面は使用しない予定だったのですが、駐車場にした方が、利便性が良いという話になり、最初は1列だけでしたが、足りないということで2列にしております。確かに乱雑な感じではありますね。松江の県立美術館のように体が不自由な方や特別な方のみの数台分の駐車スペースがあるような形が良いのですが、車社会でもあり難しいところです。

中田委員

予防医療教育を小中学校でという質問に対して「自他の命を守っていこうとする行動につながるような、事業を展開していく」という回答をしておりますが、直接的にこういった学習が必要なのか、必要ではあると思いますがそういったことも考えることができるような学び方が必要ではないかなと、ICT機器を積極的に取り入れ、自分のものとし、未来を切り開いていくツールにするのであれば、そういったことも踏まえて自分で学習していく、学習用端末の使用が増えてくれば、なおさらそういうことになってくると思います。こういうことを一つ一つやっても時間的に追いつかないということであれば、そういう問題点に対して公平な視点を持った上でどうやって学んでいくかというところの指導に力を入れていく方が良いのかなと思います、いかがですか。

山本教育長

何々教育と言うと聞こえは良いのですが、予防教育というのは大人の考え方であって、これから未来に向かって羽ばたこうとしている子どもたちに対して将来病気にならないようにというような話をするのは難しいところがあります。国の方で

はがん教育を必須にしていくような動きがあり、2人に1人ががんになる時代ですが、治らない病気ではなく、早期に発見して早期に治療するというのを教育の中で教えていこうという流れにはなっていてありますが、命の尊厳や健康な体づくり、健康な考え方、健康な食生活といったところが大事になってくると考えております。

渡邊委員

何々教育という言葉は学校の中にいっぱいあって、それを教育課程のカリキュラムの中にどんどん突っ込んでいって、それが系統立ててきちんとできているかというところを網羅的、クロスの見えていくのですが、予防教育も健康教育の中の一貫で例えば給食でも野菜から食べると体に良いといった日常的生活と絡めて、基本的なところを子どもたちの生活の中に組み込んでいくというシステムを学校の中で作り上げていくというのは至難の業ではないかと思えます。学校でもできる限りのことをしてくださっていますので、家庭でもできる場所という部分は棲み分けをしていかないと学校ですべてをやるというのはすごく難しいと思えます。

大部委員

トイレの質問がありましたが、私は両方あって良いと思っていて、体が不自由な方等、しかるべき理由がある方のための対応は必要だと思います。ただ、和式トイレがなくなって運動能力は確実に低下していると思っています。股関節の固さや足首の固さ、筋力の低下等、タブレットにしても目が悪くなる、本を読まなくなる、本を開く音や鉛筆で書く音、紙に触る感触等が抜け落ちないでほしいなと思えます。例えば辞書を開いて言葉の意味を調べていると次の言葉が目に入って、それが初めて見る言葉だったりするとその言葉はどんな意味なのかということまで調べたりして、それで勉強になる部分もあるのですが、ピンポイントでやるが多くなり過ぎて、早いし先生方も便利だとは思いますが、その分欠けてしまうこともあるのかなと思えます。

渡邊委員

メリット、デメリットはあるでしょうね。そこは検証していきながらになると思います。文科省は幼児にもタブレットを導入しようとしています、大丈夫かなと思えます。

山本教育長

ここでの議論は学校に求めるものや社会のニーズについて話し合うことが多いですが、言われたように家庭に求めるものについて情報発信することも学校の役割だと思います。家庭が学校に教育をお任せしている、だけど要求はする、その要求の多様さにお腹がいっぱいになっているのは間違いなくて、各家庭で少しずつアレンジされている部分も含めて、その多様性を認め、受けとめるのも学校という組織なのですが、振り回されて言いたいことも言えない状況になってしまっているというのが現状でしょうね。そのほかいかがでしょうか。

渡邊委員

やすらぎルームの話も出ていますが、場所が異動して、環境も変わっていますが、今の人数はいかがですか。

山本教育長

12月22日現在で小学校が5人、中学校が7人です。図書館に本を借りに行くこともあり、小さい子が喜ぶので読み聞かせのボランティアを試みたらどうかと声をかけたのですが、「やっても良いの、やってみようかな」という反応が返ってきて、文化施設が近くにあることで良い循環ができると思います。実際にやっているかどうかはわかりませんが、人の役に立つ、自分が存在することの有用さというのは大人の小さな声かけで変わってきますので、図書館はそういったものをつくる場になりつつあります。いろいろな課題を出してもらってすべてを解決するわけではありませんが、うまく消化して館の方向性やみなとテラスの意味を市民も一緒になって、みんなでつくりつつあるのだと思います。

私から一点伺いたいのですが、給食の無償化についての質問が多く出ており、全国的にも取り組んでいる自治体が増えています。本市でも義務教育3人目以降の無償化、準要保護家庭を無償化しており、受益者負担ということですべて線引きしているわけではないのですが、年間1億円という食材費をすべて公費負担するためには財源の確保が必要であるといった答弁をしています。今のところ子どもを流出させないための施策の一つというところが多いのですが、その辺り何かご意見がありますでしょうか。

渡邊委員

これだけ食料品が値上げしている中で給食の献立を維持するのはすごく大変だと思います。値上げしないでしているだけで

もすごいことだと思います。

山本教育長

出来合いのものを減らして自前で調理する等、工夫してやっ
てもらっています。質や量を落としているわけではなく、子ども
たちに必要なカロリーを維持しています。

渡邊委員

そこはご家庭も理解されていると思いますよ。

十河委員

給食センターができて中学生も給食が食べられるようになり、
お弁当を作る保護者の負担が減った上にバランスのとれた魚中
心のすばらしい給食が提供されていますので、素晴らしいこと
だと思います。

山本教育長

一足飛びに給食を無償化しますか、しませんかということに
ついては時期尚早だと思っています。そこまでにやらないとい
けないこと、例えば残菜処理については、非常にもったいない
くらいの量が出ていて、自校方式の時はウサギの餌にしたり堆
肥にしたりしていたのですが、今はセンターで粉碎して濾して
下水に流しています。食べることができない子どもが世界には
いる中で、もったいないという感覚や自分に適量だけを食べる
習慣をつけることが重要で、食の安全やアレルギーの対応は当
然ありますが、命をいただくことや生産者の方への感謝の気持
ちを自覚した上で、今日はお腹が空いているのでたくさん食べる、
今日はあまりお腹が減っていないので量を減らすといった
ことを自分でコントロールできる子どもをつくるような仕組み
が大事だと考えおります。

大部委員

給食無償化の目的をどうするかによって、子どもたちへの教
育も変わってくると思います。子どもたちと一緒に給食を食べ
ていると、最近の子は食が細いなと思うことが一つとたくさん
食べている子でも実は朝ご飯を食べていなかったという裏の話
もあったりして、両極端なので、朝昼晩きちんと食べる、何の
ために食べるか、県内産の食材を食べるといったことを学ばな
い中で給食が無償化になるのは違うのではないかという気がしま
す。1食代だけでもお金をつくりだすことは大変だということ
がわかっていない子どもたちが「不味いからいらぬ」、「こ
んなもの食べるものじゃない」ということを平気で口にすると

いうことは少し寂しい気がします。実際、食べている人がいるのに「これは食べるものじゃない」と平気で言う子もいて、そういうのを目の当たりにすると教育って大事だなと思います。

十河委員

今の残菜の話で、残菜率の多い少ないも先生の声かけでかなり変わってくるという話を以前聞いたことがあります。そういった声かけや残菜がこれだけ出ているということをしっかり伝えてもらいたいと思います。私も読み聞かせで初めて入るクラスには「給食番長」を持って行って、面白おかしくするのですが、給食を残すとかいうことになるといったことを教えていく必要があると思います。

渡邊委員

みんなに知らせて行くということが大事だと思います。

山本教育長

本市では学校栄養職員と学校栄養教諭が担当校を回っているいろいろな話をしてくれております。その際に教員が「残さず食べようね」ということを重ねてお話できると良いのですが、そういったことをできない教員も多いです。大学では給食指導は教えてくれないので。今の子はコロナで黙食していますので、小学校3年生までの子は楽しくおしゃべりするような給食は体験してなくて、これは来年も続きそうなので、なんとか取り戻してあげたいですね。

大部委員

子どもも給食時間にどうやっておしゃべりしたら良いかわからないでしょうね。

山本教育長

それを元に戻してあげられるのも教育の力だと思いますので、準備してあげたいと思います。本当は給食を無償にして、学校に行けば食にありつけるという環境だけは整えてあげるのが理想だと思います。今は子どもを産んでもお金がかかるといったネガティブな思考になっていて、子どもを育てるのは大変だということを政府はどうやって払拭するのかと思います。こども家庭庁というのができて少し機能するのかなと思いますが、いじめやヤングケアラーの対策が主になりますし、少子化大臣をつくっていますが的外れな感じはしています。お金で釣るのはどうかと思いますが、結婚すると100万円、子どもが1人できると300万円というような社会保障制度がある程度整わな

いと今みたいに子育ては苦しいものだという状況では支えられないと思います。

中田委員

制度にこだわり過ぎてしまっていて、給食の無償化にしても今だけの話でしかなくて、実際に若者を定住させようと思うとこれではないと思います。産業であったり、工業であったり、それと学びの部分が一緒になって初めてそういったことになると思います。以前、教育長が言われたように境港に学びに来たくなるような街にしたい、そういう街だから商工業も発展する、それで経済が回るといふサイクルを考えていけないと思います。市の施策にしても商業、教育と分かれてしまっていますが、そういったことを一つにして議論することが必要ではないかと思います。そうでないと流出を止めることはできない、学びたければ余所に行けば良い、仕事がないので都会に行く、そっちの方が楽しいとなってしまいます。我々はこの土地で仕事をして子どもを育てて生活していますが、子どもたちは面白くないと思ってしまふから出て行ってしまふ。学習の場でもそういったところをもっともっと表に出していくような市であってほしいと思います。教育行政と行政とがもっと一緒に考えていけるような街であってほしいです。その中に学校給食とかいろいろな問題も入っているということだと思います。残菜を下水に流すというシステムも農政とつながっていれば、肥料等に活用できるわけですから、そういったところが抜け落ちているのだと思います。

山本教育長

そのほかいかがでしょうか（意見等なし）。それでは協議案件は以上となります。ここからの進行は事務局でお願いします。

足立補佐

それでは報告事項についてお願いします。

【4. 報告事項】

《教育総務課 生涯学習課 行事等報告》

コロナ対応等について松原局長より報告

足立補佐

ただいまの説明についてご質問等がありますでしょうか。

大部委員

今の施設管理の話聞いていて、私も在籍していた時にずっ

と思っていたのですが、市の中に施設管理課という部署があると良いのにとおもいます。専門家でない担当課の職員が対応しているのですが、施設を管理する課があって、そこが教育委員会とか施設を所管している課とつながっているのが一番良いのにとずっと思っていました。施設に強い人がずっといるわけでもないで、担当者が変わる度にその人の裁量で施設がツギハギだらけになっていくということをしごく感じていて、施設管理課というのができるの良いのにとずっと思っていました。

松原局長

市にも建築営繕課という部署があり、技師が配置されていて専門的なアドバイスはいただくのですが、最終的には予算執行というところで担当課に任されるので、もちろん情報の共有はするのですが、潤沢に予算があるわけではないので難しいところがあります。

渡邊委員

どこが一番優先順位的に直さなければいけないかというところを俯瞰するところがないということですね。

大部委員

小修繕な修繕になると担当者の裁量で直すのですが、そこが最終的にはほころびになってしまうこともあり、専門職がいて、現場にちゃんと行くような形でソフトとハードが分かれていると良いのですが、ソフトもハードも同じ人がやっているとマンパワーが必要で、マンパワーじゃない人はメンタルをやられていくこともあって、専門職を雇えば潤滑にできるのに思います。それこそ縦割りになっているのだと思います。

松原局長

先日の市議会でも議会の方から公共施設等のあり方調査特別委員会というのが立ち上がりまして、市長部局と市議会とでその辺りを調整していくという動きが出ています。

足立補佐

そのほかいかがでしょうか（質問等なし）。次回日程確認。

【5. 閉会】

山本教育長

それでは本日の定例教育委員会は閉会といたします。ありがとうございました。